

平成 30 年度
大学院学校教育研究科入学式 ー学長告辞ー

今年は特に多かった雪もいつの間にか消え、そこから新たな植物の芽生えが始まり、雪国独特の春の香りを感じます。高田公園の桜も満開となり、まるで皆様のご入学を祝っているかのようです。

本日、上越教育大学大学院に入学された246名の皆様、ご入学おめでとうございます。本学教職員、在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。併せて、ご多用のところご臨席賜りましたご来賓の皆様に、深く感謝申し上げます。

さて、上越教育大学は、現職教員の資質能力の向上と、初等教育教員養成という社会的要請に応えるために設立された、新構想の大学です。大学院は修士課程と専門職学位課程いわゆる教職大学院を有し、教師としての専門的知識と、優れた実践的指導力を身につけた人材を養成することを目的としており、また、さらに高度な研究を希望する方のために、連合大学院博士課程も設置されています。そのため大学院全体の2割以上は学校現場の現職の教員が占めており、ここにおられる皆さんの中にも現職の先生方がおられると思います。その皆さんも本日から大学院で学ぶ学生となります。この2年間で、学校現場における実践的課題を解決できる力量を身につけられることを強く願っています。

一方、大学院全体の7割以上はいわゆる学部卒業生の皆さんであり、本学で2年もしくは3年間、現職の先生方と一緒に学ぶこととなります。これから教員を目指す皆さんには、その環境は願ってもないものとなりましょう。現職の先生方と日頃から接することにより、大学の授業以外でも、生の学校現場の状況や課題をごく身近に、本音で聞くことができ、それが必ずや皆さんが目指すであろう教員への道に、大きな力となってつながることでしょう。

皆さんが本学を修了して教師となり、その時に教える子どもたちが社会で活躍する頃は、どのようになっていると思いますか。今の子どもたちが活躍する頃の社会は、科学技術等の進歩とも相まって、現在では想像ができないほどの社会となっていると考えられることから、未来を生きる子供達は、自ら課題を解決する力を身につける必要があります。本学では子どもたちに対して、その能力を育成することのできる教員の養成を、目標として掲げています。

そのためには、教師が子供達の学ぼうとする力や気持ちを、引き出すことができることが重要です。子供達の個性や性格を的確に把握し、子供達が自ら学ぼうとする意欲を高めることが、大きな教育成果につながります。そのためには、教師が人を思いやる心を強く持ち、子供達一人ひとりに誠実に向き合うことが必要です。学校現場では、こなさなければならない用務が多く、教師はきつい職業だという風潮が広がってきています。そのような中では、子供達一人ひとりに誠実に向き合うということが、実際には難しいと言うかもしれません。しかし、それが教師に求められる最大の使命であり、子供達一人ひとりを理解することが、教師としてのやりがいや喜びにつながります。そのためにも、皆さん自身が学ぶべき多くの事柄があります。これから始まる大学院生活の中で、しっかり学んで頂きたいと思います。

知識として知っていることと、それを教えることは違います。ましてや高度専門職業人として「教えるプロ」なる教師に求められるものは、極めて高いことを自覚してほしいと思います。

例えば、小学校1年生では「さくらんぼ計算」という計算方法が一部で取り入れられていると伺いました。簡単に説明いたしますと、子供達は最初指を使って計算することもあり、また広く10進法が用いられていることなどから、10を基に計算しようというものです。例えば8+5の計算では、8は10に比べて2だけ足りないことから、5を2と3に分けて、5の下側にサクランボのような図を描いて、サクランボの実に相当するふたつの丸の部分にそれぞれ2と3を入れ、2は8と併せて10とし、もう一方の3を10と合わせて、答えの13を得るというもので

す。

この方法は単に答えを暗記して結果を求めるのではなく、数の概念を意識しながら、順序立てた数の理解に関わる「序数性」のほかに、全体的な数の把握、量的な数の把握に関わる「基数性」の数の概念を身につけようと言うものだそうです。数を量的な概念で理解することは、これからの算数の学びにとって重要だとの指摘があります。

子供達のつまずきは多様です。計算そのものが出来ない子、計算は出来ても暗記によって答えを出し、基数性などの数の概念までを理解できない子、数の概念までを理解できているが計算そのものが遅い子、など教師が個々の子供達を理解していないと、子どもの多様なつまずきにも対応できません。

学年が進めばさらにつまずくことも多くなるかもしれません。マイナス×マイナスはプラスになることや、 $\sqrt{2}$ の様な無理数が数直線上では示すことが出来るのに、なぜ小数では表すことが出来ないのかなど、我々が無意識的に知っていると思っている事柄も、子供達それぞれに応じた疑問が出てくることでしょう。

それらを教師が子どもたちにどのように教え、またそれを受けて、子どもたちがどのように考え、どのように理解するか、その時にどのような反応になるか、そのような問題を子供達に応じた対処・指導できる力量をもった教師こそ、本当の高度専門職業人と言えます。今は、算数・数学の例をあげましたが、他の教科でも同様です。このように高度専門職業人としての教師に求められるものは、極めて高いことを認識してしっかり学んで、引き出しの多い教師になってほしいと思います。

今更申し上げることもありませんが、学ぶということは何も大学の教員から学ぶだけではありません。むしろ、それ以外で学ぶことの方が大きいかもしれません。友人、先輩、地域の方など、皆さんがその気になればいくらでも学ぶことができます。上越教育大学の大学院に所属しているときが、人生で一番勉強したなど思えるくらい多くのことを学んで頂くことを期待します。また、大学としても、教員、カリキュラムなど環境を整えてしっかり対応します。

さて、いよいよ学究生活が始まります。本学の歴史は、今年、創立40周年を迎えるなど、長くはありませんが、教育界に大きな足跡を残していることは自他共に認めるどころです。

海と山に近く、自然環境が素晴らしい、四季の移ろいが鮮やかな上越市の学びの館、上越教育大学で、健康に十分留意しながら、充実した2年、あるいは3年間、一部の現職の皆さんは1年間かもしれませんが、それぞれの大学院生活で、皆さんが心に期している目的を達成して、修了されますことを心より祈念し、告辞といたします。

平成30年4月6日

上越教育大学長 川崎 直哉